

# 人権学習展開例 第5・6学年共通

- 主題名** 対面ではないコミュニケーション
- 教材名** どう感じるかな
- 人権学習の視点** 普遍的な視点「コミュニケーション能力」
- 主題・教材について**

SNSやコミュニケーションアプリの普及により、誰でもいつでも人とつながることができる一方、文字情報だけでは真意が伝わらず、すれ違いや誤解が生じ、そこから人間関係のトラブルに発展するケースも増えてきた。本教材は、スマートフォン等でのコミュニケーションを想定したものとなっているが、それに限らず、言葉の持つイメージを交流することで、同じ言葉でも人によって捉え方が異なることや、文字だけでは十分に思いが伝わるわけではないことを理解させたい。

●**ねらい**  
対面ではないコミュニケーションの特性を理解し、相手の立場に立って情報を発信しようとする態度を養う。

- 関連する教材** 人権学習資料集<小学校編Ⅱ>電子メールがきたよ(4年生用)  
人権学習資料集<小学校編Ⅳ>文字でかいわをしよう(2年生用)  
// こんな時 あなたならどうする?(6年生用)

●**本時の展開** ※実施にあたっては、スマートフォン等を所有していない児童もいることから、所有していることを前提とした展開にならないように留意すること。

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○SNSの利点を確認させる。	一斉	○SNSの普及によってどんなことが可能になったのかについて交流する。	○東日本大震災では、SNSが安否確認や状況を伝えるために役立ったことや、文字情報は何度も読み返せるなどの利点があることについて押さえる。	
	○本時の学習課題を知らせる。	一斉	○本時の学習課題を知る。		
<b>文字でやりとりをするときに気を付けることを考えよう</b>					
展開	○文字から受け取る意味の多様性を理解させる。	個別	○ワークシートにある言葉を言われたとき、どのように感じるかをワークシートに書き込む。	○直感的に感じたことを書かせる。	ワークシート
		ペア	○文字を見て感じたことを交流する。	○人によって同じ言葉でも感じ方が異なることに気付かせる。	

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展 開	<b>声に出してコミュニケーションをとってみよう</b>				
	○表情や声の調子から受け取る印象の違いを感じ取らせる。	ペア	○表情や声の調子を変えて、感じ方がどのように変わるのかを体験する。	○「いやな感じ方がする言い方」や「褒めるような言い方」など、色々な言い方をさせて、言い方や表情によって、伝わり方が異なることに気付かせる。	
ま と め	<b>どんなふうに伝えたらよかったのだろう</b>				
	○自分が発信する時の留意点を理解させる。	個別  個別	○ワークシートの事例を見て、どんな誤解が生じたのかを考える。  ○文字でのやりとりをする際に必要なことを考える。	○文字だけでは、誤解が生じることがあることを理解させる。  ○相手を不快にする可能性がないか、しっかりと読み返して確認する必要があることに気付かせる。	ワークシート  ワークシート
ま と め	○本時のまとめをする。	一斉	○学習を通して考えたことを交流する。	○相手がどのように捉えるかを考えて情報を発信することの大切さを押さえる。	

### ●評価

対面ではないコミュニケーションの特性を理解し、相手の立場に立って情報を発信しようとする態度を養うことができたか。

### <参考資料>

- スマホ・ケータイ安全教室 教材ダウンロード  
<https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/safety/educational/>  
 (NTT docomo ホームページ)
- 青少年のインターネット利用環境実態調査  
[http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/net-jittai\\_list.html](http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/net-jittai_list.html)  
 (内閣府ホームページ)